



地方独立行政法人

岐阜県立多治見病院

県病院のちょっと気になる?知りたい! 医療の情報誌

2018

vol. 37

平成30年1月1日発行

Gifu prefectural
TAJIMI HOSPITAL
information

けんびょういん

Contents

新年のご挨拶 2

各科からの便り 3

平成29年度
健康づくり講座予定表 6



新年のご挨拶



理事長兼院長
明生
原田

新年おめでとうございます。平成30年が皆様にとって、また私たち県病院にとっても良い年にになります事を祈念しております。今回の年末年始も、病院は例年同様救急外来、病棟とも大変多忙な毎日でした。業務に携わった全ての病院職員の皆さんに改めて深く感謝をいたします。当院は今年も地域の皆さんに安心して頂ける質の高い医療を提供してまいります。

昨年1年間を振り返りますと、4月には血液浄化センターが東病棟7階に拡充移転し、今まで以上に快適な環境で多くの急性期透析患者の皆さんのが加療していただけるようになりました。また最新の高精度放射線治療装置「トゥルービーム」が設置され、今年4月の稼働に向けて順調に準備が進んで来ています。6月には、

新年おめでとうございます。平成30年が皆様にとって、また私たち県病院にとっても良い年にになります事を祈念しております。今回の年末年始も、病院は例年同様救

急外来、病棟とも大変多忙な毎日でした。業務に携わった全ての病院職員の皆さんに改めて深く感謝をいたします。当院は今年も地域の皆さんに安心して頂ける質の高い医療を提供してまいります。

さて、今年春には6年に一度の診療報酬医療・介護同時改定が予定されており、病院としても大きな影響を受けることになります。医療機関にとって厳しい内容が予想されていますが、少しでも良い方向に進むよう正確な情報に基づいてしっかりと対応をしていきたいと考えています。

当院は病院の役割分担のなかで、特に急性期の患者さんを診療する役割を担っています。他の病院や診療所としっかりと連携して、地域全体で安心して生活できる医療環境づくりをめざしています。今後ともご支援とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

循環器内科コラム

コードブルーという大ヒットドラマがあります。ドクターへリコプター（ドクヘリ）を使って患者さんを救命する内容です。ちなみにコードブルーは病院用語ですが、コードブルーとドクヘリは直接関係ありません。さて、県病院にもヘリポートがあり、平成28年は27件ドクヘリでの患者さんの搬送がありました。この地区は救急隊員のレベルが高く、救急車は大活躍しています（タクシー代わりの救急車はご遠慮くださいね）。ただ救急車では時間がかかる地域やゴルフ場などからはヘリでの搬動があれば、救命率もあがります。したがつて現場での処置、対応が鍵になる場合が多いです。朝登校中の高校生達が、自宅の庭で倒れていた女性を迅速な対応で処置し、県病院への搬送が早く、無事救命できました。また、県病院所属の病棟看護師が、休日のスポーツイベント中に心臓発作を起こした方に心肺蘇生を施し、救命を成功させました。

近年、公共施設にAED（自動



体外式除細動器）が設置されています（県病院の中にもあります）。心室細動という死に至る危険な不整脈を感じ、自動的に電気ショックを与えて心拍を改善させます。ただし基礎に心臓疾患がある場合がほとんどですので、AED作動後、救命センターを有する県病院への搬送が必要です。AEDがない場所では、救急隊到着まで心臓マッサージをお願いします。各地域で心肺蘇生の講習会が開催されていますので、一度参加されてみてはどうでしょうか。

（文責 循環器内科統括部長 日比野剛）

臨床検査科便り

皆さまは「臨床検査」と聞かれて何を思い浮かべるでしょうか？多くの方は「血液検査や尿検査」を考えるでしょう。または、「心電図や超音波検査」を思い浮かべるかもしれません。それでは当院の臨床検査科で行っている内容を紹介します。

臨床検査は「検体検査」と「生体検査」に分けられ、医師の指示を受けて各々の検査を行っています。「検体検査」には人体から採取された血液や組織、排出された尿や便など多彩な材料の検査を行っています。微生物学的検査、血清学的検査、血液学的検査、生化学的検査、病理学的検査などがあります。当院では東棟3階で患者さんから採取された検体が集まり、24時間体制で検査しています。それでは「生体検査」とは？？？いろいろな器材を使って、体の機能を直接的に調べる検査です。臨床検査科で行っている「生理検査」と放射線科で行っている検査があります。当科が行っている「生理検査」は主に心電図、肺機能検査、超音波検査、脳波などです。検査担当者が直接患者さんに接して行う検査で主に東棟1階で行い、必

要な時は病棟へも出向いて検査しています。

なお、「主な臨床検査項目の説明」の印刷物を総合案内と中央採血室に置いてありますので、必要・興味がある方はご自由にお持ちください。当院では「共用基準範囲」（全国の医療機関で共通するように設定された基準値）を基準値に採用しています。ただし、診療ガイドラインなどで診療判断値が規定されている項目は除いています。

臨床検査科は、上記の検体検査、生理検査に加えて、中央採血室での採血業務や糖尿病教室への協力や自己血糖測定器の使用方法の説明などの業務も行っています。新しい技術の導入を進め、個人の能力を最大限に發揮して医師、患者さんのニーズに、コメディカルの一員として応えるべく日々業務を行っています。

（文責 臨床検査科 米澤千佳子）



心電図検査



顕微鏡検査



高精度放射線治療装置 True Beam稼働について

当院は、がん診療拠点病院として東濃地区のがん放射線治療の要となっています。放射線治療科は、常勤2名の医師と放射線物理士2名を擁し、当院のみならず近隣の施設から紹介されるがん患者さんに対し、日々熱心に治療に取り組んでおります。

がんに対する治療法は、外科療法、放射線治療、化学療法の3つの大きな柱によって構成されますが、その中でも放射線治療は形態や機能を温存することができ、さらに全身への影響が少ない低侵襲であることが最大のメリットです。近年ではコンピュータ技術の発展とともに、放射線治療も「高精度放射線治療」といわれる、がん病巣へ正確に放射線治療を行いながら、且つ、がんの周りにある正常組織にはあまり放射線を当てないように工夫できるようになりました。当院でもすでに「*NovaTis TX*」という放射線治療装置が稼働しており、画像誘導装置を駆使して腫瘍の複雑な形狀に合わせた正確な位置に、そして短時間での放射線治療が可能となつております。治療対象疾患としては、早期肺がんや肝腫瘍に対する体幹部定位放射線治療、転移性脳腫瘍に対する頭蓋内定位放射線治療、前立腺がんや子宮がんに対する強度変調放射線治療の症例が増加傾向にあります。しかしながら、「*NovaTis TX*」は、比較的狭い範囲に留まる病巣に対する治療得意とするもので、広範な病巣への治療が不得意であります。そこで、平成30年4月から「True Bea



射線治療装置が、当院2台目の高精度放射線治療装置として稼働予定となりました。これは、「*NovaTis TX*」での治療が困難であつた広範囲の病巣に対する高精度治療をも可能とした汎用機です。2台体制が軌道に乗った場合、紹介から治療開始までの期間の短縮、期間あたりより多くの患者さんにに対する放射線治療、高精度放射線治療の適応となる症例の増加が期待されます。今後高齢化が進みますます地域のがん放射線治療の役割が大きくなつていくと思われ、当科としましても需要に応えられるよう尽力してまいります。
(文責 放射線治療センター長兼放射線治療科部長 浅野 晶子)

高精度放射線治療センターの看護師の役割

放射線治療は、「治療を継続し完遂すること」が重要です。治療は(図1)の流れで進み、疾患によつては治療開始から終了まで長期の日数が必要になります。



私たち、患者さんが治療を続けられるよう、医師や放射線技師と情報共有を図り、身体的・

精神的支援に努めています。初めて治療を受けられる患者さんは、不安や様々な思いを抱いていらっしゃることが多いため、医師の説明を基に治療内容や日常生活の注意点をパンフレットや動画を用いて一緒に確認し、その方の理解や思いも確認しながら、治療に臨んでいただけるよう支援しています。また、放射線治療は、毎回同じ位置に照射できるよう体位の再現性が大切です。放射線技師と体位保持に苦痛が伴わないよう注意し、安全に安楽に照射を受けていただけるよう工夫を重ねています。

これまで私たちも、患者さん一人ひとりに適切に支援ができるよう、他科との連携を大切にしてきました。患者さんの思いや副作用の状況、必要なケアの継続に向け、看護記録や看護サマリ、カンファレンスを活用し、院内のスタッフや地域の医療施設との情報共有に力を注いでいます。平成三十年には新しい高度医療機器「トゥルービーム」が稼働する予定ですので、これまで以上に医師や放射線技師と専門的知識や技術を駆使し、患者さんやご家族の支援を充実させていきたいと思います。

最後に、私たちからのお薦めの本「患者さん」と家族のための放射線治療Q & A 2015年版「日本放射線腫瘍学会編」を紹介させていただきます。この本は治療や副作用についてQ & Aでわかりやすく書かれています。当院患者図書室「ぬくたらいぶらり」に置いてありますので、関心のある方はぜひ読んでみてください。

(文責 黒木・大矢・伊藤・長谷川・土屋)



「新しい放射線治療システム（True Beam）の稼働にあたって」

日本人の2人に1人が、がんに罹患する時代となつており、かつ、そこに占める75歳以上の高齢者の割合が増加しています。このような背景にあつて、当院の高精度放射線治療センターに、新たな放射線治療システムが導入されるることは地域にとって非常に重要な意味を持ちます。また、

治療システムは、がん医療にとつて欠くことができないものですが、非常に高価です。東濃医療圏人口にあつて、同様な医療機関が同じことを目指したとき、人口を二分、三分することになります。このようなシステムは導入できません。そういう意味からも、岐阜県立多治見病院が地域の皆様に選ばれ、支持されているからこそ可能であつたと感じています。

放射線治療を支える職種には、医師、看護師、受付事務員とともに、私たち診療放射線技師がいます。診療放射線技師は放射線治療システムの精度管理から、患者さんの患部への照射までを行っています。当院、高精度治療センターでは、既存の“Novarilis Tx”と新しく運用が始まる“True Beam”的組み合わせによつてX線治療での先進的技術のほとんどを応用した治療が可能です。それに伴い、放射線治療専門診療放射線技師、放射線治療品質管理士、医学物理士といった学会認定を受けた診療放射線技師が専任スタッフとして従事し、それぞれが専門性を発揮して貢献しています。資格は更新制であり、常に研鑽し、新しい知識や技術を習得していく必要があります。これはよりよい医療を提供すための一つの目安にすぎませんが、先進的なシステムを、有効かつ効果的に生かした医療を行うには、それを扱うスタッフが重要です。

このことを自覚しながら、今後も地域の皆様に信頼され、支持される病院をめざして、がん医療を支える一員としての責任を感じながら努力してまいります。その結果、将来にわたつて先進的な医療をこの地域で展開し、提供できると確信しております。

(文責 中央放射線部 技術主査 鎌田茂義)

11/5 病院秋まつりレポート



平成29年度 健康づくり講座予定表（1月～3月）

開催日	時間	施設名	演題	講演者（所属・役職）
平成30年1月15日(月)	13:00～14:00	根本交流センター (多治見市)	上手な医者のかかり方	原田 明生 (理事長兼院長)
平成30年1月22日(月)	10:00～11:00	養正公民館 (多治見市)	認知症予防のための活動	矢野 孝久 (リハビリテーション科 副技師長)
平成30年1月30日(火)	14:00～15:00	脇之島公民館 (多治見市)	うつ病について	高田 知二 (精神科部長)
平成30年2月13日(火)	13:00～14:00	笠原中央公民館 (多治見市)	高齢者向け 腰痛・ひざ／足の痛み予防	木村 信博 (リハビリテーション科 副技師長)
平成30年3月1日(木)	13:30～14:30	小泉公民館 (多治見市)	上手な医者のかかり方	原田 明生 (理事長兼院長)

当院の中村浩美周産期母子医療センター長が第39回母子保健奨励賞を受賞しました。

地域に密着した母子保健活動を献身的に行い母子保健の発展と向上に尽力された個人を称える第39回母子保健奨励賞（母子衛生研究会・母子保健功労顕彰会主催、厚生労働省・全国衛生部長会・毎日新聞社・NHK後援、JCRファーマ協賛）を当院の中村浩美周産期母子医療センター長が受賞しました。11月28日(火)、東京都文京区の東京ガーデンパレスで表彰式が行われ、母子保健功労顕彰会の岩沙弘道会長より表彰状が、母子衛生研究会の江井俊秀理事長より表彰盾が授与されました。今年の受賞者数は15名で、そのうち医師は2名でした。

